

平成23年10月11日

川口市議会議長
篠田文男様

自由民主党川口市議会議員団
先進都市視察団 代表幹事 吉田英司

先進都市視察報告書

下記のとおり報告いたします。

記

- 1 視察年月日 平成23年10月4日(火)～10月5日(水)
- 2 視察都市 熊本市 北九州市
- 3 視察事項 熊本市・・・2000人市民委員会について
北九州市・・・おもてなしの道づくり事業について
- 4 視察参加者 板橋智之 宇田川好秀 高橋英明 稲川和成 吉田英司
- 5 内容 報告 以下のとおり

○10月4日 熊本市「2000人市民委員会」について

- ・経緯 この事業は、もともと、平成22年11月に熊本市長選挙の際、現職の幸山政史市長が自分のマニフェストで掲げたことによる。
- ・目的 この委員会は、委員となった市民の皆様が、市政の様々な重要政策課題について情報提供を行うことにより、市政への関心と理解を高めていただき、複数回におけるアンケートや研修会の機会を通じて、市政への意見・提言を狙うことにある。
また、いただいた意見・提言などは、市民生活に関わる重要な課題の対応や施策の立案などにおいて、行政では参考とするものとしている。
つまり、市民の皆様と市政に関する情報共有を深め、市民参画を推進するための新たな仕組みとして取組んでいる。

- ・委員選定 委員の任期を2年とし、18歳以上の市民を対象に、年齢構成、男女割合、住所等を勘案したうえで、無作為抽出を行い、本人の承諾を得て委嘱をする。委員報酬は無し。

- ・事業内容

- ①市民委員の活動

- ア 熊本市が提供する市政情報を基に、市民生活に関わる重要な課題の対応や施策の立案などについてのアンケート調査（年4回程度）の回答や意見をいただく。

- イ 全体研修会（任期中2回程度）や市政に関する説明会・講演会等へ参加をいただき、市政に関する理解と関心を高めていただく。

- ②市民委員からのアンケート、意見等について

- ア 集計・分析したアンケート結果や意見などは、熊本市の政策課題の対応や施策立案の参考とする。また、アンケート結果は、市政だよりなどで広報する。

- ③その他

- ア 熊本市のホームページに委員会専用のホームページを開設し、情報発信を始め、委員相互が情報を共有できるよう、例えば、掲示板のような機能を検討する。

- ・委員の内訳

委員数2124名（平成23年9月現在）

最年少委員18歳（女性）、最高齢委員88歳（男性）

男性委員54.2（%）、女性委員45.8（%）

年齢区分	人口構成比（%）	委員数	委員構成比（%）
18～34	22.7	489	23.0
35～49	25.2	526	24.8
50～64	25.9	554	26.1
65～	26.2	555	26.1
合計	100	2124	100

・所感 この事業は平成23年度から実施されているが、どこの自治体でも、市民からの意見提案等を広く何ううえて、例えば、パブコメ、市長へのメール、モニター制度など様々な試みを模索中であると思う。広く意見等を集約する手段として、永遠のテーマかもしれないが、その時代に合うやり方を検討し、熊本市でも、今後、検証して、取り組んでいくそうである。また委員会の性格として、幅広く市民の意見を伺いあくまで参考とすることから、議会との関係でも問題はないのではないかと見える。

○10月5日 北九州市「おもてなしの道づくり」について

・経緯 美しい街並みや魅力ある景観を形成するために、北九州市景観条例（S60.4）、関門景観条例（H13.10）を施行。

また、観光振興にも力を入れ、門司港レトロ地区やスペースワールド、リバーウォーク北九州、平尾台自然の郷などが人気スポットとして定着し、年間約600万人の観光客が訪れるようになった。

さらに、「北九州新空港」や「東九州自動車道」、「ひびきコンテナターミナル」、「学術研究都市」など物流や交流の基盤施設が整い、北九州市への来訪者がますます増加するものと期待されている。

このような中、道路の賑わいづくりを舞台とした景観向上への取組みを進めるため、職員によるワーキンググループを結成し、道路景観の点検や勉強会を実施し、平成18年に「道路景観の向上に向けた取組み提案書」を作成、並行して、新空港開港に合わせて歓迎と賑わいの創出する取組みを行った。この取組みを受け、「北九州おもてなしの道づくり事業」が始まった。

・概要 おもてなしの道「主要6ルート」を中心に景観整備を実施
(空港、関門、田川、新門司、福岡、直方各ルート)

ハード面

- ①おもてなしの玄関（ウェルカムゲート）6箇所中、3箇所が完了
北九州市の玄関口にモニュメントの整備
「空の門」（朽網）、「赤煉瓦の門」（門司港）、
「石の門」（金辺トンネル）
- ②道路グリーンアップ（道路景観リフレッシュ事業）
幹線道路の樹木や花によるおもてなし
空港ルート（門司行橋線）、関門ルート（国道199号）、
田川ルート（国道322号）
- ③観光ビューアップ（観光地区の電線類等の地中化、歩道整備）
小倉都心地区（勝山通り）、門司港レトロ地区（ウェルカムロード）

ソフト面

- ①道路サポーター事業（市内全域）
道路清掃などのボランティア団体への支援：清掃用具や花苗の提供など

・市民の反応

- ①空港ルートなど地域住民の道路景観に対する意識が向上している。
- ②道路サポーターも年々参加団体が増加し、市民活動が全市的に広がっている。
(164団体、約1万人、H23.3現在)

・今後の課題

- ①ウェルカムロードの国直轄管理道路への設置及び管理
(福岡ルート {国道3号}、直方ルート {国道200号})
- ②タバコや空き缶等のゴミのポイ捨て対策
- ③市民の参加拡充と市民意識の向上

・所 感 ようこそ川口キャンペーンを始めた川口市でも、大いに参考となるものがあるのではないか。

期待される効果は、きれいな街、楽しい街、また来たい街、住んでみたい街など都市イメージの向上を図り、もちろん観光客の誘致も大事だが、もともとその地に住んでいる住民が、自分たちの街に愛着や誇りが持てるよう促す取組み、それが、来訪者へのおもてなしにつながるのではないかと考えられる。

北九州市では、今後も継続していくということである。

しかし、深刻な問題も出てきている。人的資源である道路サポーター制度のサポーターメンバーの高齢化によって、どう引き継いでいくか、分野が違って、どこの自治体でも、同じ課題にぶつかるのかと感じました。